

MRI 検査のリスクと造影剤の副作用に関して

1. MRI 検査による磁場、電磁波とそのリスク

MRI 検査は強力な磁場(磁石)の中で検査が行われますが、磁場そのものが人体に有害な影響を及ぼすことはありません。磁場の影響を考慮する必要があるのは、体内や体表面にある磁性体(金属や電子機器など)で、検査に際してはあらゆる磁性体の有無に注意する必要があります。

また、MRI 検査は電磁波を用いますので、体内に熱が吸収されます。通常は発熱や熱傷(やけど)の心配はありませんが、やはり磁性体には注意が必要です。

2. 造影剤のリスクと副作用

検査の部位や目的に応じて、より正確で詳しい診断のため、ガドリニウム造影剤と呼ばれる MRI による診断目的の薬剤を注射で用いる場合があります。また、肝臓の検査を行う方は、肝臓専用の造影剤を用いることがあります。

1) 造影剤に注意が必要な方

以下の条件に該当する方は、造影剤使用に当たって十分な注意が必要です。

- a. 気管支喘息の既往(特に現在、症状があり治療中)のある方
- b. ヨード造影剤や MRI 造影剤に過敏症、アレルギーの既往のある方
- c. 他の薬剤や食料品などに過敏症、アレルギーの既往のある方

2) アレルギーによる副作用の内容と頻度

MRI 造影剤による副作用、アレルギー様反応は、発疹やかゆみなど軽度の症状を含めた副作用全体で約 1.4%程度に、呼吸困難や血圧低下、アナフィラキシーと呼ばれる重い副作用は約 2 万人に一人程度の割合で発生し、ごくまれには死亡例も報告されています。

3) 腎性全身性線維症(NSF)について

造影剤は主に尿から排泄されますが、腎臓の機能が正常であれば造影剤による腎臓への影響はありません。しかし、腎機能が著明に低下した状態で使用した場合、主に遅発性の副作用として、腎性全身性線維症(NSF)と呼ばれる、皮膚や筋肉、全身臓器に線維化が生じ、まれには死に至る重い合併症を来すことがあります。

詳しいことをご存知になりたい方は画像診断受付にお尋ね下さい。また、検査リスクをなるべく正確に把握するため、検査前に必ず問診票の記入をお願い致します。

